

2020. 4. 30

きのくに子どもの村学園
保護者の皆様

学校法人きのくに子どもの村学園
学園長 堀 真一郎

おたより

新緑のいちばん美しい時期になってきました。皆さん、新型コロナウイルスに負けずに親子ともども元気にお過ごしのことと思います。

最近、テレビやラジオでよく見たり聞いたりするのですが、家庭で困っている子が少なくないようです。その理由として「親がよく怒るようになった」という悲鳴のような声が聞こえます。

そういう報道の後、ずっと昔のことを思い出しました。私は大阪市立大学にいた時には、幼児の手作り教室のほかに、お母さん教室や電話子育て相談なども続けていました。その電話相談の中にこんなのが特に耳に残っています。

小学1年生の男の子の母親ですが、この子がいうことを聞かなかったり、乱暴なふるまいが目立ったり、生活習慣があと戻りしたりして困っています。たたいたりはしませんが、きつく注意してもいっこうによくなりません。腹立たしくて気が変になりそうです。

この時は、およそ50分くらいでしょうか、助言や指導は一切しないで、ちょうどカウンセラーのように、話を聞きつづけました。すると、そのお母さんのとばが急に変わったのです。

「わかりました先生、私のほうが問題だったのですね。実は夫は新聞記者でしてね、生活がそれはそれは不規則なんです。結婚してからずっとこんな調子で、ちょっとしたことでも言い合いになったり、口をきかなくなったりで、……私はイライラのしどおしで、……先生、はっきりわかりました。私のイライラのせいで、子どもにこまかいことで注意したり、怒鳴ったりしてたんです。お時間とら

せてほんとにすみません。今日は、本当にいいお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。」

「いい話を聞かせてもらった」といわれますが。50分のうちで私が口をはさんだのは、5分もありませんでした。

というわけで、親がイライラしたり不安や不満を抱いたりしていると、気が付かないうちに子どもにつらく当たっていることは珍しくありません。現在のよ
うなイヤな時期であるからこそ、子どもさんと仲良くして下さるとよいと思
います。

もっとも不安や不満やイライラの矛先が子どもにだけ向くとは限りません。人類創世の大昔から、内部にごたごたがあると外に敵を見つけるのは、いくらでも例のあることです。子どもの村のような学校でさえ、子どもの声では「お父さんとお母さんがいつもケンカしてる。きっとリコンする……」と心配していた女の子の親は、なにかという学校へ文句をいってきました。

- ・担任の大人2人は仲がよすぎる。あやしい。
- ・ほかのクラスのプリントにはフリガナがあるのに、うちの子のプリントには漢字だけ。
- ・ほかの保護者もこういっている……
- ・うちの子は勉強をちゃんとみてもらっていない、などなどなど

ところで、こういう社会情勢になってきたため、職員たちは交代出勤であるにもかかわらず、子どもたちとの対応や、学習材の研究や、見学先の下調べや、学校内に山積みの備品などの整理（これが大変な仕事です）などに精を出しています。とてもよくやってくれています。

私自身も3月1日から土曜日曜も含めて、これまで毎朝、遅くとも11時には学校へ出ています。たいていは夜の8時か9時頃まではいますので、よければお電話くださるとうれしいです。

では、また。

十分すぎるほど十分にご自愛を。